

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立生馬小学校）

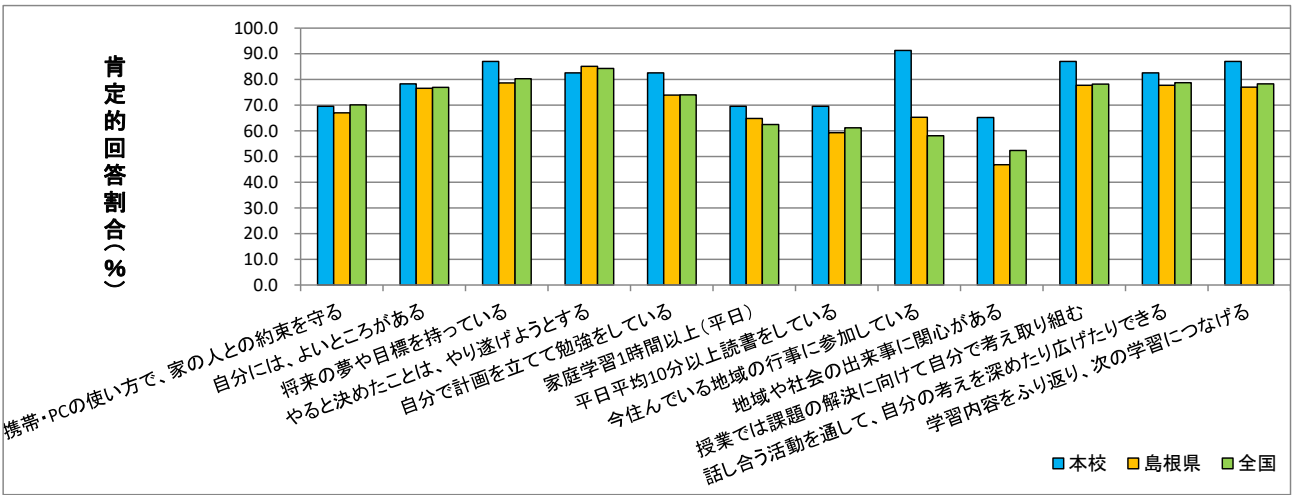
(1) 学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○: 成果、●: 課題)	対 策
国語	○言葉の使い方に関する事項の正答率が高い。 ○県・全国平均に比べ、「読むこと」の領域での正答率が高い。 ●文章を要約する力が弱い。 ●指定された文字数にまとめて文章を書く問題の無回答率が高い。	・文章を要約するスキルを身につけさせる。 ・字数を決めて文章を書く練習を積む。
算数	○無回答率が低く、粘り強く問題に取り組む姿勢が身についている。 ●求積の基本的な公式が身につけていない。 ●説明をするなどの記述問題の正答率が低い。	・求積の公式を単に覚えるのではなく、意味理解ができるような指導ををしていく。 ・図で表したり、説明をしたりする場を増やしていく。

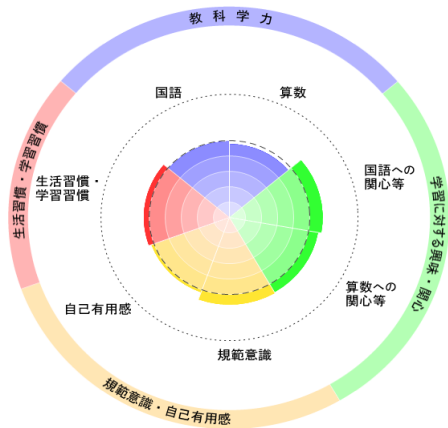
(2) 生活意識調査から見られた傾向

成果と課題(○: 成果、●: 課題)	対 策
○前向きに生活する態度が見られ、自己肯定感も高い。 ●ゲームなどをする時間がやや多い傾向がみられる。 ●新聞を読む児童がやや少ない。	・新聞を活用する機会を設けるようにする。(授業・外部講師の活用・新聞を読めるコーナーづくりなど)

(3) 意識調査(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています)



(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向(破線は全国平均)



(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・「めあて」「まとめ」「ふり返り」のある授業づくりに努める。
・自主学習ノートの丁寧な指導により家庭学習を充実させる。
・メディアコントロールウィークの取組により、メディア接触の時間を減らす意識づけをする。

【受検者数】 23 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。